

仙台市太白山自然観察の森 情報誌 2023年3月号

森のおくりもの3

NO.378 The Gift from Woods

マンサク（マンサク科）



黄色の花びらがクルクル巻いてあるのがわかりますか。チョウのような口（口吻）が何とも面白い姿のマンサクの花ですが、花びらが長く伸びたヒラヒラ・ポンポンとは違いますね。この写真は、温かさに誘われて蕾がほころび始めた数日の様子ですが、3月はキレイに咲いている花をお楽しみください。写真のマンサクは「やすらぎの道」番号杭「キ1」の南側付近にあり、芽吹く前の枝にキラキラしている黄色が目立つと思います。【館長 佐藤由美】

森のことは

自然の様子や出来事を四字熟語やことわざなどに当てはめ、森で感じた言葉をお届けします。

『二兎追うものは一兎も得ず(にとおうものはいっともえず)』

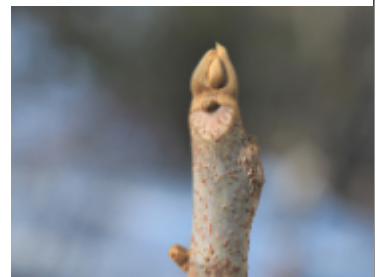
ある日の朝、私の目の前にノウサギがいることに気づきました。ノウサギに出会えることは滅多にないので、見られただけで感激だったのですが、写真が撮れたらすごく自慢になるとつい欲が出て、カメラを用意しようとしたとたん逃げられてしまいました。じっとしていたならもう少し長く観察できたかもしれせん。

今年の十二支の兎に因んで、飛躍する年にしたいとか、童謡ふるさとの「うさぎおいしーかのやま〜♪」のフレーズをよく耳にします。兎の肉は鳥の肉に似ているからウサギは1羽2羽と数えること、兎の肉を食べたことを懐かしんでうさぎ美味しいという詩なのだという勘違いを実は私もしていました。昔は兎狩り・兎追いという狩猟が行われ、子どももノウサギを追いかけたというのですが、警戒心が強くとてもすばしっこい上に雪の野山を追いかけるのは容易なことではなかったのではと想像します。でも、そのような体験がいい思い出に残るのですね。

兎がつく言葉に『二兎追うものは一兎も得ず』が思い浮かびます。馴染みのある言葉なので、中国の故事成語か昔からのことわざだと思っていましたが、実は西洋のことわざでした。正確な起源は分かっておらず由来も諸説ある中で、代表的な狩人の説があります。「ある日、狩人が2匹の兎に遭遇したので、2匹とも捕獲できたら生活が楽になると考え、2匹同時に捕まえようとしたところ、結局は1匹も捕まえられなかった」というお話です。そこから「欲を出して二つのことを同時に成し遂げようとしても、結局はどちらも失敗する」というたとえになったということです。よく使う言葉ですが、一番のポイントは欲張ってはいけないという教訓です。似たようなお話に、イソップ寓話の『犬と肉』という欲張りな犬の話があります。そういえば日本の昔話でも『花咲か爺』や『舌切り雀』など、欲張りを戒めるお話がたくさんあります。洋の東西を問わず欲張りが一番いけないこととされていると感じました。

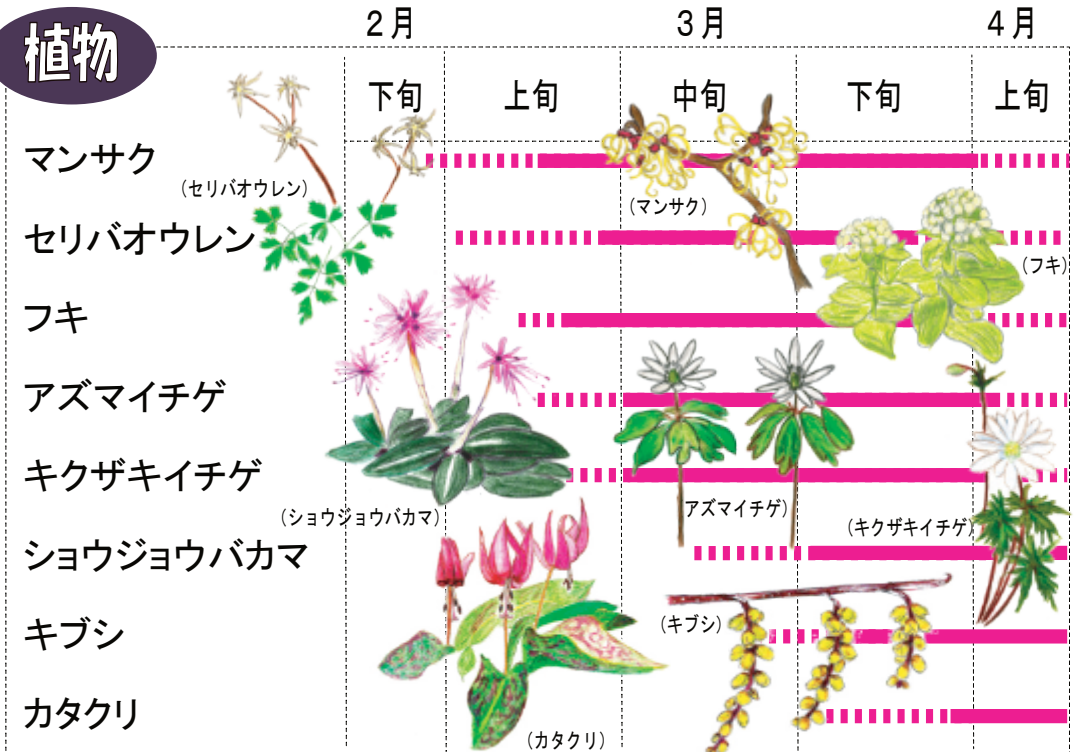
今年は「二兎追うものは一兎も得ず」の精神で、欲張らず謙虚な気持ちを心掛けていきたいと思います。

【レンジャー：新田隆一】



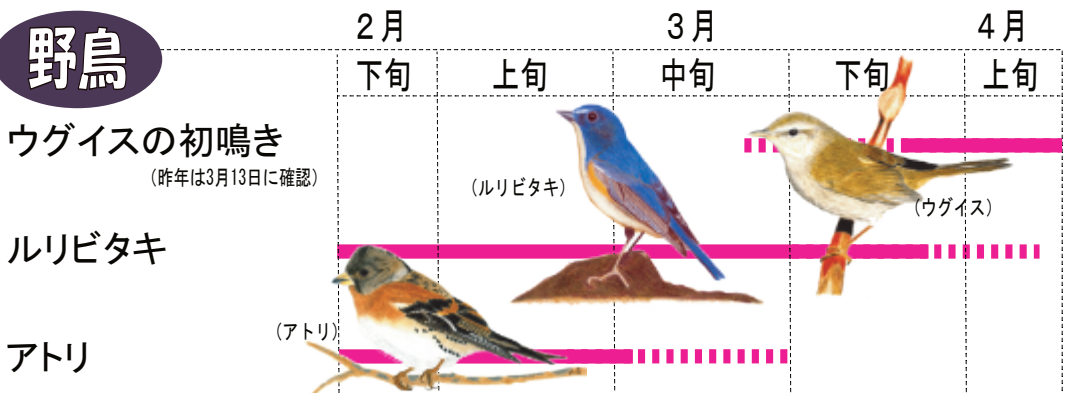
3月の生物ごよみ

植物



センター裏庭にある野鳥の餌台『野鳥のレストラン』には、常連のヤマガラ、シジュウカラやアトリ、カシラダカなど10種類ほどの野鳥たちでにぎわっています。3月末まで開催しているので是非お越しください。早春を代表する植物、マンサクの花は2月18日に『みはらしの道』で開花を確認しました。昨年と比べ7日ほど遅い開花になりました。また草本の一番手セリバオウレンも少しずつ咲き始めてきたようです。毎年、春の訪れを告げるウグイスの初音が聞けるのは3月中旬になります。昨年は3月13日に確認されました。今年は何れくらいになるのでしょうか。春はもうそこまで来ているようです。
【レンジャー: 齋 正宏】

野鳥



森の「あれこれ」



「千客万来」



1月14日に「野鳥観察とバードケーキ」というイベントを行いました（ご参加いただいた皆さんありがとうございます(^_^)）。バードケーキは小麦粉と砂糖を油で練って簡単に作れます。それを松ぼっくりに詰め吊るしておけば“ゆらゆら揺れてヒヨドリはとまりにくく、メジロやシジュウカラなど小鳥向け”と話しましたが、かなり頑張って羽ばたきながら空中停止（いわゆるホバリング）のヒヨドリに2月中に完食されました（上記写真）。ヒヨドリも必死ですが、他の小鳥にもごはんがいきわたる方法とバードケーキの解説を少し変えないといけませんね。ご報告まで（苦笑）。



ヤマガラやシジュウカラは警戒のためかヒマワリの種をくわえ即移動。一方アトリ（写真右）はその場でもぐもぐしている場合が多いです。

さて、冬は寒さやえさ不足など野鳥にとって厳しい季節です。けど、その過酷な中で懸命に生きているからでしょうか。冬の野鳥はひととき美しく愛おしく思えます。そんな姿を身近で見られる“野鳥のレストラン”の営業もあと少しです。まだまだ冬の気配の残る観察の森ですが、暖かい格好で鳥たちの姿を観察しにいらしてみたいはいかがでしょうか。そうそう、室内から観察なので暖かい所で野鳥を脅かさず見られます。【レンジャー：木田秀幸】

森は糸



森は布

森は様々な生き物が互いにつながって
森として生きているんですね (*_*)

明るく暖かな日差しが観察の森を照らしています。冬の間、ササやアオキの葉などを食べて凌いでいたカモシカにとって、芽吹いた若い葉や咲き始まるカタクリなどは待ちに待ったごちそうでしょう。ぱったりと出会った1頭のカモシカは体の大きな雄でしょうか。繁殖に成功した雌はまもなく出産の時期を迎えます。5月頃には親子連れの姿が見られるかもしれません。哺乳類と違って、冬の間休眠することの多いチョウや植物は日の長さや温度をしっかりとらえ活動開始です。青色がきれいなキクザキイチゲの花があちこちで咲き始めました。フクジュソウのように花びらに見えるガクを広げて日光を集め、訪問した昆虫などに暖を与えて受粉を促すのでしょうか。・・・(^_^)



薄緑色の苞葉が開いてたくさんの蕾が顔を出しています。フキノトウの花ですが、雄株でしょうか雌株でしょうか。もし雄株だったら筒状花にいっぱい蜜をためてアブなどを呼び込みます。雌株の花はダミーの雄蕊を持っていますが花粉はできず、蜜も出しません。自家受粉させない仕組みです。蜜をもらい花粉をつけた虫たちに受粉を託すのです。こちらではルリシジミがセリバオウレンで蜜を吸っているようです。蛹で越冬し、羽化したばかりのチョウにとって蜜はエネルギーの源。蜜をもらったからには受粉を成功させなくてはね。互いに繋がって生きている命です。【レンジャー：菅原幸彦】

3月のイベント&お知らせ



◆「おはよう野鳥かんさつ」

【日 時】3月11日(土) 6:30~8:00

【対 象】小学生以上 15名 (中学生以下は保護者同伴)

【内 容】早春の雑木林を歩きながら野鳥を観察して自然に親しみます

【持ち物】双眼鏡、飲み物、帽子、かっぱ、防寒具、歩きやすい服装と靴

【申込み】3月7日(火)午前9時より電話受付(先着)

◆「春をさがして～観察の森一周ウォーク」

【日 時】3月18日(土)10:00~12:00

【対 象】小学生以上 15名 (中学生以下は保護者同伴)

【内 容】セリバオウレンの開花など春の気配を感じながら早春の森を歩きます

【持ち物】飲み物、帽子、かっぱ、防寒具、歩きやすい服装と靴

【申込み】3月8日(水)午前9時より電話受付(先着)

◆「早春の植物かんさつ会」

【日 時】3月25日(土) 10:00~11:30

【対 象】小学生以上 20名 (中学生以下は保護者同伴)

【内 容】早春に咲く植物を観察しながら自然に親しみます

【持ち物】飲み物、帽子、かっぱ、防寒具、歩きやすい服装と靴

【申込み】3月9日(木)午前9時より電話受付(先着)

◆「野鳥のレストラン」OPEN!

【期 間】3月31日(金)まで(開館時間中) 野鳥のえさ台を設置しています

ガイドウォーク 毎週日曜日開催
申込み不要、どなたでも参加できます

開催日:5日,12日,19日,26日

時 間:10:00~11:30

※12月~3月の冬季は午前1回のみ開催

休館日



6日,13日,20日,27日

毎週月曜日休館、月曜日が祝祭日の場合翌平日が休館

観察の森へのアクセス



宮城交通バスの場合

① 仙台駅 乗車時間 約40分

② 長町駅東口 乗車時間 約30分

③ 八木山動物公園駅 乗車時間 約10分

【行先】①②③「太白団地經由山田自由ヶ丘車庫行」

※③のみ「太白団地、山田自由ヶ丘經由仙台南ニュータウン行」

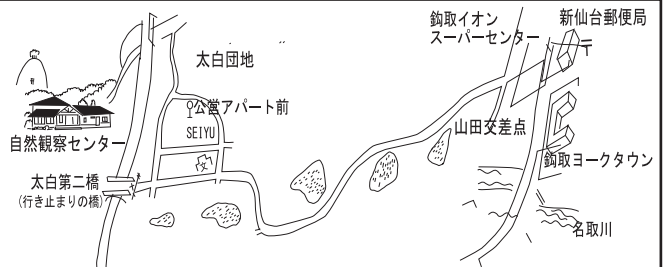
いずれも 公営アパート前 下車→ 徒歩15分

お車の場合

国道286号線の山田交差点から太白団地方面へ。

道々の案内板に従って約10分で駐車場へ。

駐車場から徒歩5分でセンター



〒982-0251 仙台市太白区茂庭字生出森東36-63

Tel: 022-244-6115 FAX: 022-244-6133

発行: (公財)仙台市公園緑地協会

編集: 仙台市太白山自然観察の森 自然観察センター